

幕開け歌三線：安波節・安里屋ユンタ・めでたい節

※本番は、暗譜（覚えて）歌えるようにして下さい。

【調弦について】

音の高さは『A#』（B $\flat$ ）にしてください。（本調子）

《合→A#（B $\flat$ ） 四→D#（E $\flat$ ） エ→A#（B $\flat$ ）》

【演奏方法】

①安波節：歌持（前奏）2回の後、1番・2番と演奏します
※2番まで歌った後、歌持（後奏）を2回弾きます
※“0拍子”でつないで2曲目へ移ります。

②安里屋ユンタ：歌持（前奏）1回の後、1番・2番と演奏します
※2番まで歌った後、歌持（後奏）を弾きます。
※“0拍子”でつないで3曲目へ移ります

③めでたい節：歌持（前奏）2回の後、1番・2番・3番と演奏します
※3番まで歌った後、歌持（後奏）を幕が下りるまで繰り返して演奏します。

【より楽しく演奏するために】

楽しく歌うために、歌詞をはっきり発音してみてください。無理して大きく歌うよりもうまくいくかも・・・♪

また、三線のポジションがしっかり出来ると歌いやすくなります。

3曲とも“本調子”という調弦の種類ですが、その中で5つの型という分類に分かれます。キーワードは使われる音、特に『上・中・尺』の3つの音です。

安波節と安里屋ユンタは“鳩間型”という種類で、『上・中』が曲の申に入っています。（尺は弾きません）左手人差し指と中指の運動が多く使われます。『中』の高さが低くなると（ポジションが上がってしまう）暗い曲に聞こえてしまいます・・・（笑）しっかりそのポジションをとらせてください。

めでたい節は“かぎやで鳳型”という種類で、『上・尺』が曲の申に入っています。（中は弾きません）左手人差し指と小指の運動が多く使われます。

『尺』のポジションは歌口（三線の弦が巻かれている所にある白い部分）から範16cm。小指が痛くならないように、届かない場合は左手全体をスライドさせながら尺のポジションをとらせてください。

【歌詞の読みと意味】

●安波節（あはぶし）

- 1、嘉例吉の遊び 打ち晴れてからや 夜の明けて太陽の 上がるまでも
- 2、安波のまはんたや 肝すがり所 宇久の松下た ねなし所

- ① おめでたい遊びの時はお互いに心をかよわせて、永遠にその嬉しさが続きますように。
- ② （国頭村）安波にある小高い丘に登ると、心が落ち着く場所である。その奥に入っていくと松の木があってその下は昼寝をするのにとってもいい場所である

●安里屋ゆんた（あさとやゆんた）

- 1、サー君は野中のいばらの花か（サーユイユイ）
暮れて帰ればやれほんにひきとめる（マタハーリヌ チンダラ カヌシヤマ
- 2、サー嬉しい恥ずかし浮名を立てて（サーユイユイ）
主は白百合やれほんにままならぬ（マタハーリヌ チンダラ カヌシサマヨ）

- ① あなたはトゲのある花ですか、もう日が暮れてきて私は帰りたいのにトゲで引っかけるようにして私を返さない。
- ② 嬉しいやら恥ずかしいやら（私とあなたが）うわさ話になって。なかなか白百合の花のように（純粋な恋のように）うまくいかない。

●めでたい節

- 1、今日のほこらしやや 何をにぎやなたてる つばでをる花の 露きやだこと
- 2、嘉例吉の遊び 打ち晴れてからや 夜の明けて太陽の 上がるまでも
- 3、夜明けて太陽や 上がらんゆたしや 巳午時までも 御祝さびら

- ① 今日の嬉しさは何にたとえようか 蕾の花が朝露を受けてきれいに咲いたようだ。
- ② おめでたい遊びの時はお互いに心をかよわせて、永遠にその嬉しさが続きますように。
- ③ 夜が明けてもさらにその嬉しさ（お祝い）が続きますように

沖縄県中学校文化連盟



安波節

本調子

男弦A $\sharp$ (B $\flat$)
《調子笛2番》
中弦E $\flat$ (D $\sharp$)
女弦A $\sharp$ (B $\flat$)

一、嘉例吉の遊び打ち晴れてからや
夜の明けて太陽の上がるまでも

二、安波のまはんたや肝すがり所
宇久の松下やねなし所

[illegible]



君は野中のばら
暮れ帰れば花か
しれぬサアユイ
嬉し恥かし浮名をたて
主は白百合のほにまなぬシヤヨ

→ 歌持ちへ

沖縄県中学校文化連盟

本調子
男弦A $\sharp$ (B $\flat$)
《調子笛2番》
中弦E $\flat$ (D $\sharp$)
女弦A $\sharp$ (B $\flat$)

一、今日のほこらしやや
二、嘉例の遊びを花の晴露きにぎやなたてる
三、夜明きて太陽やが御祝さんゆたしや

[illegible]